

最近の「農業論議」雑感

今日ほど農業或は農政についての発言が多い時期はない。それこそ連日のようにこの問題に関する論評，提言，批判が新聞，雑誌の誌面に渦巻いている。

農政審の「21世紀へ向けての農政の基本方向」もまさしくその中での一つの将来展望なのであろう。そこでは農産物の供給過剰という認識の下で，どうやって消費者も納得する合理的な価格を形成するか，その為の生産性向上，コストの引下げを実現するかに腐心している様子がうかがえる。その処方箋から臆気に浮かびあがる“中核農家——企業者マインドと知識を持った農業経営者——”を中心とする規模拡大化した農業生産というイメージは，その時の農作業の体系がどうなるのか，関連資材或は生産物の流通は，これらを取り巻く諸制度は，また副次的に派生するであろう社会的問題——土地，雇用等——がどう変わっていくのか，我々の想像力を刺激するものがいろいろとある。

ところで一部アフリカ等の例外を除くと世界的に農産物は過剰状態であるという認識が広まっている。一方21世紀に向けて世界の人口は60億人台に達するといわれ，その食糧確保は最大の関心事でもある。それ故に食糧増産に寄与する分野の未来は一層の成長が期待され，我々が参与する農薬もその一端を担って行くものと自負したいものである。しかし今後の農業生産力の拡大，農業技術の向上は多様な手段を通じて実現されると思われる。とすれば人口増，食糧需要増と農業関連資材への要求が単純な一次関数的なものでもなкаろう。どんな多元的変数を予測していくのか，今後の研究開発の視点にも

目 次 (第21巻第2号)

アメリカ合衆国における水稻直播栽培……………2

＜日本植物調節剤研究協会

吉沢長人・竹下孝史＞

1. 稲作の概要……………2
2. カリフォルニア州の湛水直播栽培……………2
3. アーカンソ州の直播栽培……………5
4. 雑草防除……………7
5. 国府田農場……………8

野菜の作型と雑草防除……………11

＜野菜・茶業試験場 施山紀男＞

1. 野菜の作型……………11
2. 作型と環境条件・品種・栽培法……………14
3. 作型と雑草発生……………14
4. 作型と雑草防除……………15
5. 野菜・花き関係除草剤試験実施基準の改訂について……………17

昭和61年度落葉果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績概要……………19

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会
技術部＞

————— 人 事 往 来 —————

- 山本農薬株式会社他……………34
○植調協会だより……………35

つながっていくのであろう。

[三井東圧化学精密化学品本部長 佐藤彰夫]